

令和4年度 学校経営計画

富山県立高岡聴覚総合支援学校

1 学校教育目標

障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力や態度を養い、社会的に自立できる人間を育成する。

<校訓> 明朗 誠実 敬愛

2 学校の特徴

本校には、聴覚障害のある幼児児童生徒が在籍し、社会自立を目指して、幼稚部から高等部までの一貫した教育を行っている。高等部においては、平成22年度に福祉・サービス科を設置し、軽度の知的障害のある生徒が共に学び、生活する中で、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力や態度を養い、地域社会で生きる力を育てている。

また、聴覚障害教育センターを併設し、特別支援教育のセンター的役割を担い、聴覚障害の早期発見・早期教育、あらゆる年齢層の相談に応じ、地域に開かれた教育相談支援を目指して活動を行っている。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

- ・幼児児童生徒の在籍数の減少により、一人学級や少人数学級のため、集団による学習活動が難しくなっている。他学部や地域の学校との交流、聴覚障害と知的障害の障害種を超えた交流など、好ましい人間関係の構築や集団行動を身に付けるための場の工夫が必要である。
- ・聴覚に障害のある幼児児童生徒には、聴覚口話を基本とし、個々の実態に応じたコミュニケーション手段を併用して、言語力とコミュニケーション力の向上を図っている。また、聴覚障害教育センターの役割として、県西部の聴覚障害者の多様なニーズへの対応、総合的な指導・支援の充実を図る必要があり、聴覚障害教育に関する専門性の維持・向上が必要である。
- ・聴覚障害及び軽度知的障害それぞれの障害の特性から、日本語の習得やコミュニケーション力の向上等において様々な困難を伴い、学習の理解や定着の面で課題が見られることから、個々の実態に応じた指導・支援の工夫が必要である。
- ・あふれる情報、価値観の多様化等、変化の激しい社会の中で、社会的・職業的自立に向けて、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通して、思考力、判断力、表現力等の「生きる力」を身に付けていくことが必要であり、各学部段階でのキャリア教育の推進が求められる。また、高等部では、複数の障害種を対象とすることから、多様な課題を抱えた生徒の自己理解の促し、能力や特性に基づく職業観を育成するなど、進路指導の充実が求められる。

(2) 課題

- ア 障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実
(ICT教育の充実、キャリア教育の推進)
- イ 聴覚障害教育、知的障害教育についての専門的知識と指導力の向上
- ウ 地域に開かれた学校としての教育活動の推進
- エ 健康で安全な学校づくりのための人的、物的環境の整備
- オ 組織的・計画的な学校経営と共通理解・相互協力の推進

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画		
1	学 習 活 動	幼稚部	目標	・様々な体験を通して教師や友達と心を通わせることで、自分の気持ちを言葉や身振りで表現する楽しさを味わい、コミュニケーションの意欲を高める。
			計画	・気持ちを伝えたいと思えるような心を動かす楽しい体験を充実させるために環境の整備を行う。 ・写真、絵、文字、キューサイン、手話などの有効な手段を十分活用する。
		小学部	目標	・縄跳び運動において、跳べる種目や回数を増やし、運動能力の向上を図るとともに、目標に向けて意欲的に取り組む力を育てる。
			計画	・休み時間を利用し、継続して縄跳びに取り組む。 ・記録カードや強化週間を作り、一人一人が目指すチャレンジ階級を掲示する。 ・シールや賞状、発表会などを設け、意欲付けを図る。
		中・高等部	目標	・社会自立、職業自立のために必要な、基礎的・基本的な学力や技能の定着を図る。
			計画	・自分の特性や能力に合った学習方法を見付け、主体的に学ぶ態度を育てる。 ・学校行事や部活動、生徒会活動など、様々な場面で、協力しながらやり遂げる機会を設定する。
		小学部、 中・高等部 重点1	目標	・児童生徒が自分の目標とする姿を描き、それに向けて主体的に取り組む活動を通してキャリア形成を図る。
			計画	・ キャリア教育の意義やキャリアパスポートの活用方法について、教員間で共通理解を図り、児童生徒が振り返りをしやすい学習活動や場面を設定する。 ・ 児童生徒自らが目標を設定し、取り組み、振り返る活動を重ね、記録を蓄積していく中で、個々のキャリア形成を図る。
2	学校生活	目標	・健康の保持増進を図るために必要な、基本的知識と実践力が身に付くようにする。	
		計画	・保健学習や保健指導を通して、健康づくりのためのよりよい習慣を育てる。 ・学校医や保護者と連携を図りながら、感染症対策に努めるとともに自ら健康に気を付けて生活する力を育てる。	
		目標	・危機管理マニュアルを整備し、実践的な訓練を実施することで緊急時の対応力を高める。	
		計画	・緊急時の対応についてのマニュアル（不審者対応、避難訓練）を見直す。 ・緊急時の対応について、職員の研修会を計画的に実施し、周知を図る。	
3	進路支援	目標	・進路支援に必要な情報収集の充実を図るため、関係機関と連携した進路支援に取り組む。	
		計画	・ハローワークや特別支援学校就労応援コーディネーター等との連携を図り、就業体験やインターンシップ先の開拓を行う。 ・障害者就業・生活支援センター等と連携し、卒業生の職場定着を図る。	
4	特別活動	目標	・全校の交流を通して、心身の健全な発達と学校生活の充実を図る。	
		計画	・全校幼児児童生徒で行うレクリエーションを1回以上実施する。 ・いろいろな行事の中で、全校が交流する機会を設定する。	

5	その他	目 標	・ 教員の聴覚障害教育や知的障害教育等に関する専門性の向上を図る。
		計 画	・ 幼児児童生徒の教育的ニーズに対応できるよう、校内研修を実施し、実践する。 ・ 短時間で負担感なく取り組める手指メディア学習会を計画し、継続して取り組む。 ・ オンラインによる外部研修への参加を奨励し、校内で共有する。
		目 標	・ 保護者と連携し、P T A活動の活性化に取り組む。
		計 画	・ 保護者が主体的に企画運営や参加ができるよう、保護者の意見を反映したP T A活動の体制について見直しを行う。
		目 標	・ 乳幼児児童生徒の教育的ニーズの把握に努め、必要な支援を検討する。 ・ 早期支援の充実を図る。
		計 画	・ 乳幼児児童生徒が関わる、保健、医療、福祉、教育等の関係機関との連携を図る。
		目 標	・ I C T機器の効果的な活用方法について、教員のスキルアップを図る。
		計 画	・ <u>外部講師等を活用し、校内研修を充実させる。</u> ・ <u>I C T機器の活用が効果的であった授業実践事例を蓄積し、教員間で共有する。</u>

重点 2

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和4年度 富山県立高岡聴覚総合支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動 一小学部、中・高等部一
重点課題	児童生徒が、キャリア形成に向けて、自身の目標とする姿を思い描き、主体的に取り組むための指導・支援の在り方
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、児童生徒が自己理解を深め、自分の課題に気付いて取り組めるよう、学年や学期の始め、また行事等の学習活動の前に目標を立て、終了時に振り返りを行ってきた。しかし、それらの振り返りから、児童生徒が自身の成長や課題に気付き、これからの生き方や進路について主体的に考えるまでには至っていない。 ・基本的な生活習慣の形成を課題とする児童、将来の社会生活や家庭生活を思い描くことが難しい生徒など、キャリア形成の実態に差があり、個に応じた取組や支援が必要である。
達成目標	児童生徒がキャリア形成につながる具体的な目標設定と振り返りの活動を行う回数 各学部5回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の意義やキャリアパスポートの活用方法について研修し、教員間で共通理解を図る。 ・児童生徒が振り返りをしやすい学習活動や場面を設定する（教科活動、教科外活動、学校外の活動の3つの視点が含まれるよう設定する）。 ・書くことが苦手な児童生徒でも活用しやすい記録の蓄積の仕方について検討する。 ・学級活動や教科などの時間に、児童生徒自らが目標を設定し、取り組み、振り返る活動を積み重ね、記録を蓄積する。 ・年度末に1年間の成長と課題を振り返りながら、蓄積した記録を整理し、残したいものを選んでキャリアパスポートファイルに綴る場面を設定する。 ・教員間で、児童生徒の変容や成長、今後の課題について情報交換を行う。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和4年度 富山県立高岡聴覚総合支援学校アクションプラン - 2 -					
重点項目	その他 一教務部一				
重点課題	I C T機器の効果的な活用方法に関する、教員の専門的知識と技能の向上				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度からI C T推進事業、教員用・生徒用L A Nの更新、オンライン授業・会議の推進、タブレット端末の配置事業などが行われ、教育環境が整ってきた。 ・各種の事業によって教員のスキルアップは徐々に図られてきているが、まだまだタブレット端末等のI C T機器を学習活動の中で十分活用しているとは言い難く、児童生徒が主体的に学ぶために、障害の特性や実態に対応したI C T機器の効果的な活用方法をさらに学ぶ必要がある。 				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>①外部講師等を活用した 校内研修の実施回数</td> <td>②I C T機器の活用が効果的であった 授業実践事例の収集</td> </tr> <tr> <td>年3回</td> <td>事例20例以上</td> </tr> </table>	①外部講師等を活用した 校内研修の実施回数	②I C T機器の活用が効果的であった 授業実践事例の収集	年3回	事例20例以上
①外部講師等を活用した 校内研修の実施回数	②I C T機器の活用が効果的であった 授業実践事例の収集				
年3回	事例20例以上				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師（富山県総合教育センター講師、I C T支援員）を招へいしての校内研修や、本校教員を講師とした校内研修を、計画的に実施する。 ・クラウドサービスの使用方法をマニュアル化し、使用方法の研修会を行う。 ・他校の見学や情報交換を通して、I C T活用例を情報収集し、他の教員も参考にできるよう校内研修会で報告する。 ・I C T機器を活用した授業実践を積極的に行い、効果的であった実践事例を収集して、サーバー内で他の教員が閲覧できるようにする。 				

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）